

シンポジウム 1

クリラボ Clinic Research Institute

■会場／第1会場

■日時／5月11日(木)
10:40～12:00

■演者

- (1) 播磨 光宣
(加藤クリニック麻布)
- (2) 新行内 芳明
(BIANCA CLINIC)
- (3) 八杉 悠
(フェレザクリニック)
- (4) 山本 崇弘
(東京美容外科)
- (5) 鉄 鑑
(医療法人社団SUNSET)
- (6) 朝日 林太郎
(日本医科大学 形成外科学講座)
- (7) 居原田 麗
(麗ビューティー皮フ科クリニック)

■座長／堀田 和亮
(BIANCA CLINIC)
牧野 陽二郎
(聖心美容クリニック 銀座院)



座長

堀田 和亮
Kazuaki Hotta

BIANCA CLINIC
BIANCA CLINIC

【経歴】

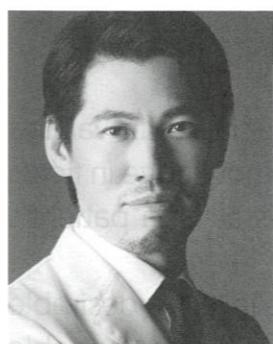
■2009年
日本大学医学部卒業
東京女子医科大学病院勤務

■2011年
医療法人社団 翔友会

■2014年
医療法人社団 創輝会 理事

■2018年
BIANCA CLINIC 開院

■2019年
医療法人社団 SMILE LAND 理事長



座長

牧野 陽二郎
Yohjiro Makino

聖心美容クリニック 銀座院
Seishin Plastic and Aesthetic Surgery Clinic

【経歴】

- 2004年 東京慈恵会医科大学卒業
- 2006年 東京慈恵会医科大学附属病院 形成外科
- 2017年 東京慈恵会医科大学附属柏病院 形成外科診療部長
- 2019年 聖心美容クリニック
- 2021年 聖心美容クリニック 六本木院(旧東京院) 副院長
- 2023年 聖心美容クリニック 銀座院院長

■抄録

「お顔」を良くするための最善の治療選択

～木を見ず森を見よ～

本邦における美容医療の進化とともに各分野におけるスペシャリストが増えてきている。その一方で専門外の分野についての知識が乏しいと、患者のすべての悩みを1人で対応するのは困難な場合もある。

これは患者にとって望ましい状況ではない。美容外科医として自分ができない治療も含めて最適な提案ができるようになるのが望ましいと考える。

例えば眼瞼については、本邦の顔面の美容外科手術の約7割程度は二重埋没法に集約されるが、実際は埋没法のみでは不十分な場合が多くある。

また眼瞼のみならず前額から頬部の周囲組織の状態に応じて、患者の要望に最も則した術式を選択し、機能的な支障を来さずに手術を施行することも求められる。

鼻についても同様に、糸やヒアルロン酸の注入によるプチ整形と外科的な手術はそれぞれにニーズがあり、プチと手術の共存が求められる時代となっている。そのためには各治療法が提供できる効果とリスク、そして限界を術者が把握し、使い分けることが重要である。

また「顔」という臓器は目・鼻・輪郭などパートに分けられて議論されることが多いが、バランスや配置によってそれぞれのパートがその他に影響を及ぼすため、パートに分けて考えるのではなく総合的に「顔」という臓器を診れるようになる必要がある。

例えば輪郭が変われば鼻や目の見え方は変わるし、鼻が変われば口元の印象も変わる。またヒアルロン酸注入などの非手術療法によっても顔の印象を大きく変えることができる。

現在の学術集会においても、パートごとに分けられて議論されることが多いが、今回新たな試みとして各分野のスペシャリストが集まり「顔」というひとつの臓器に対して手術療法と非手術療法を含めて総合的に診る方法というものを議論したい。

■Abstract

The Best Treatment Options to Improve Your “Face”

Don't look at the trees, look at the forest.

With the evolution of aesthetic medicine in Japan, the number of specialists in various fields has been increasing. On the other hand, we may not have enough knowledge in fields outside of our specialty, making it difficult for one physician to address all of a patient's concerns.

This is not a desirable situation for patients. As cosmetic surgeons, we believe it is desirable to be able to make the best recommendations, including treatments that we are not able to perform ourselves.

For example, about 70% of facial cosmetic surgeries in Japan are buried-suture double-eyelid blepharoplasty, there are many cases in which this surgical technique alone is not sufficient.

In addition, depending on the condition of not only the eyelids but also the surrounding tissues from the forehead to the cheeks, the surgeon must select the most appropriate technique to meet the patient's needs and perform the surgery without interfering with the function of the eyelids.

Similarly for the nose, there is a need for both petit surgery using threads or hyaluronic acid injection and surgical procedures. It is important for surgeons to understand the effects, risks, and limitations of each treatment method, and to use them in different ways.

The “face” is often discussed in terms of its parts, such as the eyes, nose, and contours, but it is necessary to be able to examine the “face” comprehensively, rather than dividing it into parts, because each part affects the others depending on its balance and placement. For example, if the contour changes, the appearance of the nose and eyes will change, and if the nose changes, the impression of the mouth will also change. Non-surgical treatments such as hyaluronic acid injections can also significantly change the impression of the face. In the current academic meetings, discussions are often divided by parts, but as a new attempt, specialists from various fields will gather to discuss how to comprehensively examine the “face” as a single organ, including both surgical and non-surgical treatments.

SY1 シンポジウム 1



播磨 光宣
Mitsunobu Harima

加藤クリニック麻布
Kato Clinic Azabu

【経歴】

- 2012年 3月 東京大学医学部卒業
- 2014年 4月 東京大学医学部附属病院形成外科 入局
- 2015年 12月 東京大学医学部附属病院形成外科 助教
- 2018年 4月 関東中央病院形成外科 医員
- 2019年 4月 東京警察病院形成外科 医員
- 2021年 4月 加藤クリニック麻布 入職

SY1 シンポジウム 1



新行内 芳明
Yoshiaki Shingyochi

BIANCA CLINIC
BIANCA CLINIC

【経歴】

- 2011年 順天堂大学医学部卒業
- 2013年 順天堂大学 形成外科 助手
- 2016年 戸田中央総合病院 形成外科 部長
- 2018年 順天堂大学 形成外科 助教 医局長
- 2020年 プリモ麻布十番クリニック 勤務
- 2022年 BIANCA CLINIC 技術指導医



八杉 悠
Yu Yasugi

フェレザクリニック
Felleza Clinic

【経歴】

- 2006年 神戸大学医学部卒業
- 2008年 神戸大学形成外科入局
- 2013年 三菱神戸病院形成外科 医長
- 2014年 川崎病院形成外科 医長
- 2015年 大手美容外科クリニック勤務
- 2021年 フリーランス美容外科医
- 2022年 フェレザクリニック開院 現在に至る



山本 崇弘
Takahiro Yamamoto

東京美容外科
Tokyo Cosmetic Surgery

【経歴】

- 2010年 名古屋大学医学部卒業
- 2010年 東京警察病院 臨床研修医
- 2012年 東京大学医学部附属病院 形成外科
- 2013年 焼津市立総合病院 形成外科
- 2014年 自治医科大学病院 形成外科
- 2015年 東京警察病院 形成外科・美容外科
- 2017年 帝京大学医学部附属病院 形成外科
- 2019年 東京美容外科
現在に至る

シンポジウム 4

未来の経営の SNS 戦略 経営上手なクリニックと SNS 集客（光と闇） SNS Strategy for Future Management Well-Managed Clinics and Attracting Customers through SNS (Light and Dark)

■会場／第1会場

■日時／5月11日（木）
16:30～18:00

■演者

- (1) 当院の SNS 戦略について
麻生 泰
(東京美容外科)
- (2) 美容外科医としての Twitter を用いた情報発信の有効性と注意点
小川 英朗
(城本クリニック 福岡院)
- (3) SNS との付き合い方
朝日 林太郎
(日本医科大学 形成外科学講座)
- (4) 美容医療と YouTube 発信
友利 新
(シロノクリニック恵比寿/表参道スキンクリニック)
- (5) 美容医療におけるインスタグラムの過去と未来
堀田 和亮
(BIANCA CLINIC)

■座長／相川 佳之

(湘南美容クリニック/SBCメディカルグループホールディングス)



座長

相川 佳之
Yoshiyuki Aikawa

湘南美容クリニック/SBCメディカルグループホールディングス
Shonan Beauty Clinic/SBC Medical Group Holdings, Inc.

【経歴】

1997年 日本大学医学部 卒業
癌研究所付属病院麻酔科 勤務
2000年 湘南美容クリニック 藤沢院 開院
23年を経て、
国内と海外に、133院を経営し、
年間の来院者数は、347万人を誇る、業界1位の医療グループへ成長を遂げる。

【所属】

- ・一般社団法人 日本美容外科学会 理事
- ・2015年第103回 日本美容外科学会 学会長
- ・一般社団法人 日本先進医療医師会 理事
- ・一般社団法人 日本再生医療学会 正会員
- ・2期間 一般社団法人 日本再生医療学会 理事長補佐
- ・パッションリーダーズ 理事
- ・公益財団法人 SBC 医学振興財団 理事長

【出版書籍】

- ・僕が湘南に小さなクリニックを開業し、
20年で「101院、年間来院者数230万人」の医療グループに拡大できた理由
- ・究極の「三方良し」経営
日本一の美容医療グループ達成の原動力
- ・情熱経営
- ・あなたがもっと美しくなる！心のプチ整形



美容医療におけるインスタグラムの過去と未来

The Past and Future of Instagram in Aesthetic Medicine

堀田 和亮

Kazuaki Hotta

BIANCA CLINIC

BIANCA CLINIC

【経歴】

- 2009年
日本大学医学部卒業
東京女子医科大学病院
- 2011年
医療法人社団 翔友会
- 2014年
医療法人社団 創輝会 理事
- 2018年
BIANCA CLINIC 開院
- 2019年
医療法人社団 SMILE LAND 理事長 現在に至る

■抄録

近年、SNS の普及により、美容医療が大きくパラダイムシフトしている。

中でも、インスタグラムは美容医療との親和性が深く、現在の医療マーケティングにも大きく関与しているアプリである。

インスタグラムを活用することで、競合との差別化、ファン作りなど、広告費をかけずに PR が可能となり、集客も容易となった。

それに伴い美容医療の普及にも多大な影響を与えている。

良い面では、美容医療の裾野を広げ、潜在層・顕在層を掘り起こすことで、業界自体の活性化に寄与しているが、逆に悪い面では、ユーザーに過度な期待や誤解を生むような悪質な表現などが後を絶たない。

今回は、美容医療におけるインスタグラムの過去と未来、そしてその影響による光と闇について、私の体験を含めてお話ししたい。

■Abstract

In recent years, the proliferation of social networking services has led to a major paradigm shift in aesthetic medicine.

Among these, Instagram is an application that has a deep affinity with aesthetic medicine and is heavily involved in current medical marketing.

By utilizing Instagram, it has become possible to differentiate oneself from the competition, build a fan base, etc., and attract customers easily through PR without spending on advertising.

This has had a tremendous impact on the spread of aesthetic medicine.

On the positive side, it has contributed to the revitalization of the industry itself by broadening the base of aesthetic medicine and uncovering potential and actual users. On the negative side, however, there is no end to malicious expressions that create excessive expectations and misunderstandings among users.

In this presentation, I would like to talk about the past and future of Instagram in aesthetic medicine, and the light and darkness caused by its influence, including my own experiences.



鼻尖部增高を目的とした膜性鼻中隔へのヒアルロン酸注入療法について

Hyaluronic acid injection therapy into the membranous nasal septum for the purpose of nasal apex elevation

紀田 基邦
Motokuni Kida

BIANCA CLINIC
BIANCA CLINIC

【経歴】

- 2018年 大阪医科大学卒業
- 2018年 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院入職
- 2020年 品川美容外科
- 2021年 BIANCA CLINIC
- 現在に至る

■抄録

近年ダウンタイムの少ない非外科的治療に対するニーズは高まっている。本格的な鼻の外科的治療に抵抗がある患者にとって、鼻へのヒアルロン酸注入療法は低侵襲で比較的簡便であり需要の高い治療となっている。

しかし鼻尖へのヒアルロン酸注入は、塞栓症の報告もあり、リスクが高いため控えるべきとされてきた。

当院では鼻尖を增高させる目的で、鼻尖ではなく膜性鼻中隔へのヒアルロン酸注入を行っており、安定した結果が得られることから満足度の高い治療となっている。

当院での鼻へのヒアルロン酸注入療法に関して、安全性への考察も加え報告する。

■Abstract

In recent years, the need for non-surgical treatment with low downtime has been increasing.

For patients who are resistant to full-fledged surgical treatment of the nose, hyaluronic acid injection therapy into the nose is a minimally invasive, relatively simple, and popular treatment.

However, hyaluronic acid injection into the nasal apex has been avoided due to the high risk of embolism.

At our hospital, hyaluronic acid is injected into the membranous nasal septum instead of the nasal tip for the purpose of increasing the height of the nasal apex, and it is a highly satisfactory treatment because stable results can be obtained.

We report on hyaluronic acid injection therapy into the nose at our hospital, adding safety considerations.

機能的整容的鼻中隔形成 Functional and Aesthetic Septoplasty

中尾 崇^{1,2)}、堀田 和亮¹⁾、服部 有美¹⁾
Takashi Nakao^{1,2)}, Kazuaki Hotta¹⁾, Yumi Hattori¹⁾

BIANCA CLINIC¹⁾、東京女子医科大学足立医療センター 形成外科²⁾

BIANCA CLINIC¹⁾, Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Tokyo Women's Medical University
Adachi Medical Center²⁾

■抄録

鼻中隔形成術は鼻中隔弯曲を矯正する機能的手術と鷲鼻や鞍鼻変形などの鼻背の形態の改善を目的とした整容的手術に分けられる。機能的鼻中隔形成術は、偏位した部分の切除と矯正である。鼻中隔弯曲に対して鼻中隔の屋根と柱 (L strut) を温存して、鼻閉の原因となる変形した鼻中隔軟骨、篩骨正中板、鋸骨を切除する。L strut 部の変形 (鼻中隔の前弯、上弯変形) がある場合は、採取した軟骨や骨を batten (当て木) graft として正中化するように矯正するように移植する。整容的鼻中隔形成は鷲鼻修正に代表される。鷲鼻修正は飛び出した骨軟骨部を切除する Joseph の open roof 法があるが、鼻背の骨軟骨接合部 keystone area を温存する Preservation Rhinoplasty (以下、PR) の概念を用いた鼻中隔形成術が注目されている。PR における鼻中隔形成は鼻内での鼻中隔軟骨切除と鼻骨骨切り術を組み合わせたものであるが近年多くの方法が報告されている。鼻中隔の切除部位と鼻骨骨切りの方法によって大別される。代表的な幾つかの方法について当科での経験も踏まえ紹介する。鷲鼻を含む斜鼻変形の症例においては鼻中隔形成にて機能的にも整容的にも大いに改善が期待されるが、欧米よりも外鼻が全体的に小さい本邦においては注意が必要であり、本邦における PR の機能的注意点について報告する。鼻フルと呼ばれる鼻骨骨切りや鼻中隔延長術をふくめた大掛かりな鼻整形が全盛であるが、これから増加するであろうと思われる鼻フル後の修正術も勘案して外鼻の構造上の柱である鼻中隔操作が今後ますます重要になってくると考える。

■Abstract

Functional and aesthetic septoplasty is an important part of rhinoplasty, and with the recent rise in preservation rhinoplasty, nasal septoplasty is becoming increasingly important. We report on the methods and considerations of nasal septoplasty in Japan.

TnR メッシュと耳介軟骨を併用した鼻尖形成術の検討 Study of rhinoplasty using TnR mesh and auricle cartilage

池内 秀行
Hideyuki Ikeuchi

医療法人秀咲会 コムロ美容外科
Komuro Aesthetic & Plastic Surgery Clinic

■抄録

鼻尖の手術の際にはさまざまな自家組織が使われるが、それぞれ一長一短がある。その中でも耳介軟骨は採取と加工が容易なため鼻整形によく使われるが、軟骨自体が薄く柔らかいため支持力が弱い。そのため、皮膚が硬く厚い東洋人の鼻尖を、理想的な形にするには工夫が必要である。再手術となると、すでに軟骨採取済みで組織が不足したり、組織の瘢痕拘縮により皮膚の伸展が悪く、思った形状を作りにくくなることが多い。そこで当院では、材質が PCL である吸収性のプレート TnR メッシュを支持材料として使用し、耳介軟骨と組みあわせて鼻尖形成を行った。中短期的な経過を含めて発表する。

■Abstract

Various autologous tissues are used in nasal apex surgery, each with its own advantages and disadvantages. Among them, auricular cartilage is often used for rhinoplasty because it is easy to harvest and process, but the cartilage itself is thin and soft, so its support is weak.

When revision surgery is performed, there is often a lack of tissue because cartilage has already been harvested, or scar contracture of the tissue causes poor skin extension, making it difficult to create the desired shape.

Therefore, we used an absorbable plate made of PCL, TnR mesh, as a support material and combined it with auricular cartilage to form the nasal apex. We will present the results including the medium- and short-term progress.